



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2019年3月1日

3月号・第206号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



<竹林の整備>

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	31年度歴史文化クラブ・年間計画	9
Monthly Repo. ならやま	2	字遊字感	10
私のふるさと	3	2月月例研修会・報告	11
里山の今	4	語り合う会・報告	12
里山の今・鳥シリーズ	5	ならやまプロジェクト	13
ならやま投句箱	6	行事案内1・進路ガイダンス報告	14
31年度月例研修会・年間計画	7	行事案内2・行事案内3	15・16
31年度自然教室・年間計画	8	幹事会報告・編集後記	17

壮春力歩

会長 鈴木 末一

握手して 授かる志金 雪晴るる

2月1日、新潟市で開かれた第29回コメリ緑資金助成金贈呈式に出席しました。上記の句は、その時の情景を17文字に託してみました。

北は仙台から西は岡山の全国16団体の代表者一人一人が、捧理事長（コメリ代表取締役社長）から目録を贈呈されました。私は前回の式の様子などをHPで確認していましたので、『資金の「資」は「志」の志金と受け止めております。緑化推進活動を通して、地域住民にとって、憩いと癒やしのエリアづくりに役立たせていただきます』と決意とお礼の言葉を申し上げ、理事長と堅い握手を交わしました。

会創設18年、ならやまプロジェクト13年目へと歩みつつあります。ボランティア団体運営の三本柱は人材、資材、資金といえるでしょう。ここでは活動の財源となる資金調達に思いを巡らせてみました。

市民の活動団体を対象に、企業などが開催する助成金セミナーや助成金贈呈式などに出席した経験から感じる事があります。助成金を申請する団体の数が増加傾向にあるためなのか、あるいは活動内容が幅の広いものとなっているからでしょうか、審査の基準が一段と厳しさを増しています。

そのような情勢にありながら活動実績などが高く評価され、複数の企業から助成金を授与していただくことができました。会員の皆様の溢れるほどの情熱の賜物です。感謝します。

授与式に出席しますと、それぞれの企業が、自然環境活動にどのような理念でもって臨んでおられるのか、そして、そのコンセプトへの前進を目指し、市民団体に助成金を通して委ねておられるのかを垣間見ることができます。団体のプレゼンや代表の方々との会話を通しても色合いなどを掴み取ることができます。これも勉強です。

思いの丈をこれでもかと思われるぐらいにぶつけて提出した申請書だから、絶対に認めて貰える

であろうと、自信たっぷりで提出したものが、結果として不採用になることも経験しました。何故なんだ？と、自問自答することもありました。しかし、何度か涙を呑んだ経験から、冷静になって考えてみますと、内（会員）向きの活動内容になっていて、地域社会などへの波及効果、貢献活動へと繋がるものでない、このことがネックになっているのだ、ということに気づきました。

昨年12月6日のトヨタ環境活動国内小規模プロジェクト助成決定証授与式の折には、決定証が額に納められておりました。3部門（海外、国内、国内小規模）の団体代表者に、選考委員から決定証が授与されました。そして、2年前の5月、花王みんなの森づくり助成授与式でも、執行役員の方から各団体代表一人一人に目録の贈呈がありました。

このように助成金授与式を通して、各企業が、どのような理念の元に授与されているのか、また、私たちに発信しようとしているのかを理解しなければなりません。従って、申請書の作成段階、否、プロジェクトプランニングの時点から理解した上で、取りかかることが求められているように思います。

いくつかのステップを考えてみますと、
ステップ1：①何をしたいのか、何をするのか。

- ・半年、年間、3年～5年ごとの目標（夢）？
- ・集団的なディスカッション（語り合い）

②何のための、どのようなお金が必要なのか？

ステップ2：資金提供団体の情報収集

- ・繋がった資金提供者と信頼関係を築く。
- ・選考委員やトップなどのリサーチ。

ステップ3：申請書関係の構成や要素の充実

ステップ4：資金提供者への感謝、情報発信

- ・成果は資金提供者と分かち合うこと。

ステップ5：資金使途の追跡とレポート

☆☆☆☆☆

そして忘れてはならないのが、ご支援いただく助成財団への感謝の気持ちです。活動財源の調達には、自分たちの思い（夢）を実現するために欠かせないからです。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

1月24日(木) 活動 晴れ 74名+2名

寒に入り一年で一番寒い時期を迎える。しかし今日も 80 人近い参加者を数え、サイトのあちこちで活動が続く。春に向けての準備の佳境だ。打ち合わせでは先週開催された新春講演会と表紙デザイン表彰式の報告や、今猛威を振るっているインフルエンザへの備えのお願いなどが中心となる。シニア生 2 名。テントの設営工事はほぼ完成。里



山 G は薪棚の補修や楢木作り、エコ G は野菜の追肥と竹林整備、そして景観 G は竹の整理と

竹林整備を行う。またビオ班はドジョウ池の整備、花班は皇帝ダリヤの撤去、パト G は 1 コースのパトロールと観察路の階段補修を行う。その他果樹班はイチジクの施肥とテント周りの樹木の剪定に取り組む。

1月31日(木) 活動 曇り後雨 38名+1名

降水確率 50 パーセントの中、午後は本降りの雨になり、活動は午前中のみになる。また、会長はコメリの助成金贈呈式出席のため新潟に出張。打ち合わせでは天皇陛下在位 30 年記念植樹のための推奨植樹提案のお願いや 2 月 19 日実施予定の「語り合う会」の趣旨説明などが行われる。また不法に投棄されていた消火器の扱いについても説明がある。シニア生 1 名。作業中に起きたけがについてのボランティア保険の給付の可否についての相談がある。この件については窓口の奈良市ボランティアセンターに問い合わせ中。里山 G はシイタケ楢木の整理、エコ G は野菜の収穫、そして景観 G は竹林整備を行う。またビオ班は溝掃除、

花班は雑草取り、パト G は丸太階段用土運びに取り組む。

2月7日(木) 活動 晴れ 84名

2 月。いよいよ春だ。そして今日は月初めの活動日。協働活動にアダプトプログラム、そして G ごとのミーティングと忙しい。協働活動ではイベントの植樹用の穴掘りやその周りの下草刈りの作業になる。50 個の穴掘りも無事終了。打ち合わせではコメリ助成金贈呈式の報告とイオン環境活動助成が決定したことなどが連絡される。また「語り合う会」への参加要請も行われる。里山 G は楢木切りと運搬、エコ G は水田の準備の他野菜の収穫、景観 G



は竹林整備を行う。またビオ班は西池の水抜き、花班は花畑の草取りと寒肥入れ、そしてパト G は 2 コースのパトロールと丸太階段整備に取り組む。その他果樹班はグミの木の枝の整理を行う。

2月14日(木) 活動 晴れ 76名+2名

新しい場所での植樹用の穴掘り作業が行われ、無事イベン



トの準備も整った。その他シイタケイベントの参加協力者への説明会や各 G

の責任者に集まってもらっての安全管理のチェックシーターのすり合わせ、加えて交通費補助の支給などで忙しい活動日になった。里山 G は楢木作りと運搬、エコ G は畑へのチップ入れと野菜の収穫、そして景観 G は竹林整備を行う。またビオ班は池の整備、花班は草取りと寒肥入れ、パト G は 3 コースのパトロールと丸太階段の補修を行う。

私のふるさと



田代 一行

私は長崎県北部の西彼杵（にしそのぎ）郡長与村という小さな村で生まれました。村は半農半漁で、特に県内では有数の伊木力（いきりき）みかんの産地でもあります。父は三菱造船所に勤めており、昭和 30 年頃はタンカーの需要が急増している頃で、すでに造船所の社宅が 200 戸くらい建てられており、ここで 4 人兄弟の長男として生まれ、中学 3 年まで過ごしました。社宅だけで村の人口の 1 割位を占めていたようで、家は木造平屋の二戸一で、二戸が背中合わせに建てられており、一戸あたり 150 坪くらいの敷地があったように思う。各家は思い思いに家庭菜園をつくり、ニワトリ、ヤギ、ウサギなどを飼っていました。

父が戦地に行っている間は母方の祖父母がここに疎開していたようで、戦後、祖父母は長崎市内（大浦天守堂近く）の実家に戻り、その後は家族 6 人で過ごした。私は戦後の食料不足に未熟児で

生まれたよう
で、母はいつ
たん、あきら
めたが、良い
薬が手に入っ
て助かった、



とよく話していたことを今も覚えている。

遊びといえば山と海と川で、ふだんは山と川で日が暮れるまで遊び、夏は大村湾で泳ぎ、ハマグリやミナをとったり、釣りなどで遊んだ。小学生の低学年の頃はスズムシ、コオロギなどの昆虫や黄金蜘蛛などをとり、飼育に夢中になったこともありました。今は禁止されているが、中学生の頃にはカスミ網やオトリ、トリモチで野鳥を捕り、メジロ、ウグイス、ホオジロ、伝書鳩、フクロウなどを飼育しました。鳥籠はリング箱や竹ヒゴなどで作るが、小遣いなど無いため、アルバイトで小遣い稼ぎをして、部品などを買ったりしたものでした。ある時、えさをやるためにメジロとスズメのヒナを学校に持って行き、教室に置いていた

ら、パイパイ鳴き、先生からやかましいと怒られ、しゅしゅ運動場の隅に持って行ったが、猫にやられるはしないか心配で授業が手につかなかった時のことを思い出す。水中鉄砲、ゴム銃、下駄部分が 2m 以上もある竹馬、模型飛行機、ハタ（凧）もよく作った。ビー玉やメンコは宝物でした。習い事といえば、毎週、剣道をやっていたが、冬の剣道は冷たく、きつかった記憶がある。

小学低学年の夏休みは毎年、盆前に母の実家へ 1 人で汽車に乗って行き、数日間、祖父の畑仕事を手伝いながら過ごした。坂の長崎といわれるように、長崎の段々畑を登るのは、きつかったのを覚えている。8 月 15 日の盆には父母弟妹が来て、夜、墓で花火をして、精霊流しを見て帰るのが楽しみでした。村でも毎年、精霊流しがあり、中学生の時、海水パンツに着替えて大村湾の沖まで泳ぎ、精霊船を担いで行ったことを思い出す。

当時、祖父はまだピカピカの刀を 10 本くらいと鉄砲を持っており時々見せてくれました。その時よく「うそをついたり、悪い事したら、これで斬るぞ」と言っは、いつも「こん子は正直もんや」と言いながら頭をなでてくれていたのが、今の生活信条となっているのかもしれないと思うこともあります。その時の刀と鉄砲は家宝として、届け出により 1 本だけは保管が許されているが、残りは法律で一代限りの保有が終わり、国に没収されたとのこと。

この村も今は長崎のベッドタウンとなり、昔の面影はほとんどない。



中学生までは遊んでばかりで、宿題以外は勉強するよしもなし。夏休みの宿題は直前に、もちろん母から勉強しろと言われた記憶もない。いまさらながら、もう少し勉強しておけばよかったと思うが、遅すぎる後悔である

里山グループ

山本 隆造

里山の今



エコファームグループ

富江 文雄

◆ 継続は力なり

ナラ枯れは一昨年終息しましたが、昨年は台風により多くの倒木が発生し、その処理に追われる日々が続きました。一段落したところで、ナラ枯れ後の里山整備のあり方を改めて考える時期かも知れません。

ナラ枯れでできたギャップを埋める森の更新は種子による更新か植栽による更新ということになります。種子による更新は、実生の成長に必要な環境の保持が難しく不確実です。植栽による更新は種子から育てたコナラやクヌギなどを植栽するもので、確実であり、有効な手段と考えられます。下草刈りは、ササや灌木の繁茂抑制、景観の保持や植栽苗の成長促進に加え、実生の成長にも効果が期待できる重要な作業です。これまで実施してきた下草刈りや植栽は、一定の成果を上げつつあり、地道にこれらの作業を継続していくことが肝要かと思えます。「継続は力なり」です。

一方、ならやま自然の森、特にナラ枯れ被害が大きかった谷道周辺では、ササ類の生育が旺盛で、一部ヤブ化しつつあるのでは、と危惧されます。



自然の森は、極力人手を入れず、自然に任せるのが原則ですが、自然観察路の確保や希少植物保護のため、最小限の手入れは必要と考えます。具体的には自然観察路脇へ積み上げた、倒木処理に伴う残材の片付けや、観察路沿いの下草刈りが急がれます。今後、人手を入れた“ならやま里山林”と、自然に委ねた“ならやま自然の森”の植生の遷移を、注視していきたいと思えます。

◆ 一輪車のはなし

私は奈良・人と自然の会に入るまで、一輪車を使ったことがなかった。商社での現役時代にはアフリカ向けで、大量に輸出していた経験を持つけれども、現実に関心があるようになるとは考えてもいなかった。

手押し車の歴史は古く、西洋ではギリシャ、ローマの時代に既に使われていたという壁画が出ており、主に軍事物資の運搬に使われていたのではないかといわれ、また、中国では紀元前2世紀頃の記録に木製の荷車があったと記されている。ただ、それらはほとんど二輪車であり、一輪車として使われたのは12世紀からといわれる。

車輪が一つの一輪車は弧輪車（こりんしゃ）と正式に呼ばれており、道路交通法では軽車両として扱われている。子どもたちが遊ぶ一輪自転車と区別するため、一輪運搬車と呼ばれたり、工食用（または農作業用）一輪車と呼ぶこともある。更に、二輪車を含めて、‘猫車’や‘猫’と呼ばれることもあり、その理由として、裏返した時の姿が、猫がまるまっている形に似ているからとの説があるが、根拠は薄い。

一輪車は二輪以上の荷車に比べ、直立安定性が悪いため、不慣れなときにはひっくり返すこともよくあるが、車幅よりも狭い足場を通すことができ車輪を中心にして、その場で方向転換も可能で、さらには進行方向に対して左右に傾斜している場所でも車体を水平に保つことができる等々、熟練すれば二輪車よりもはるかに便利に使える。

従来タイヤがよくパンクしたが、近年ノーパンクタイヤの採用で、その問題も少なくなってきた。

ということで、春、夏野菜の準備のため、今日も肥料をせっせと運び、また、一輪車の使い方の練習に取り組んでいる。



景観グループ

中川 瑛雄

◆ならやまの景色

私が、シニア自然大学校を卒業してから、ならやまに通いだして、今年で6年目になります。

この間、家から、長居駅までの景観は、ほとんど変化していません。通いだしたころには、電車に乗って、JR 平城山駅に着き、ならやまの基地に向かって歩き出して5分ぐらいの荒れた丘で、その上を、ブルドーザーが走り回っていました。

1年くらいたって、平地になり、宅地として売り出されました。それから2年くらいは、モデルルームしか、建っていませんでした。そして、その一角に、コンビニが出来たころから、住宅が建ち始め、今では、50棟を超える迄になり、郊外の住宅街らしくなっています。

ここを過ぎ、道路を渡り、ならやまの入り口に立つと、私が通い始めたころからあまり変わらない、ならやまの基地が見えてきます。一見すると、あまり変わっていないように見える里山の風景ですが、季節ごとに変化しているのを感じます。特に、春から秋にかけて、基地まで歩く間、来るたびに、少し前に刈った雑草が背高く育ち、あすこも刈らな、ここも刈らな、と思いながら、基地まで来ます。ならやまに来て、草を刈り、竹の間伐をしていると、「里山風景を維持するには、大変な労力がいるということ」を、実感している私です。

しかし、去年は残念な思いをしました。夏の間、体の調子が悪くて、年末まで来られなかったのですが、久しぶりに、ならやまの景色を見ながら歩いていると、なんか違うなと感じたのです。朝礼が終わり、草刈り作業のために歩き始めたところ、あの大きな桑の木がないことに初めて気がきました。いつまでも残っていてほしいと思っていた大木は倒れ、生えてほしくない雑草は、刈っても刈っても生えてくるのです。

ならやまで草刈りをするようになってから、旅行しても、きれいに整備された田園風景を見ていると、つい、「この風景維持するのは大変だろうな」と思ってしまいます。



鳥シリーズ

小田 久美子

◆「ウグイス」と「ヒバリ」

『万葉集』 大伴家持の歌から二首

2月23日(太陽暦 4/1)に、興に依りて作る歌
19-4290 春の野に 霞たなびき うら悲し
この夕影に うぐひす鳴くも

2月25日(太陽暦 4/3)に作る歌
19-4292 うらうらに 照れる春日に ひばり上り
心悲しも ひとりし思へば

《春の日はうららかに照り、鶯は今しも啼いている。痛むこの心は、歌でないと紛らし難い。そこでこの歌を作



って、鬱屈した気持ちを散じる。なお、この巻の中で作者名を示さず、ただ、年月・場所・事情だけ記してあるのは、みな大伴宿禰家持の作った歌である》と不思議な文言がある。

4290~4292 の三首は、後世「絶唱三句」とか「春愁三句」と呼ばれ家持の歌の中でも「越中秀吟」と並んで高く評価される歌でもあります。

橘諸兄邸の宴席で興に乗って、暖かい春の日に詠んだのに「うら悲し・心悲しも」と歌った家持の心情はどうだったのでしょうか。

天平勝宝 5(753)年、この時家持はまだ若く 35才。平城京に戻っては来たが、越中守の時夢見ていたような活躍は出来ず、名門氏族大伴は衰退するばかりでした。帰京がかえって希望を失わせる結果になってしまったのでしょうか。

昨年 12 月、愛知県支部と奈良支部の合同探鳥会「平城宮跡・水上池と奈良公園」の案内を担当しました。オシドリなどの鴨たちは出揃っていましたが、午前中は生憎の天気で小鳥類が出てくれなくて、こちらは気が気ではありませんでした。十数羽のヒバリが大極殿前の芝生で餌を啄んでいるのに喜んで頂けてホッとしました。平城宮跡では私たちには当たり前の鳥ですが、地面で見るとは珍しいのだとお聞きして逆に驚きました。

◎ 鶯は何時の時代から「ホー ホケキョ!」と啼いたのか。お判りになりますか?

ならやまトーク・投句 (寒中編)

越後路で一期一会の新酒酌む

古酒新酒越後の人と酌み交わす 鈴木 未一

(助成金を頂いたコメリの捧社長さんとの出会い。越後の珍味で酒を酌み交わす。一期一会の酒とも。それにしても越後は寒かった)

朝日浴び鳥ぞ群れたる寒桜 八木 順一

(花も少なくなった朝、枝に小鳥の群れ。ああ冬桜が咲いていたか)

春待つや学びの跡の稲のかぶ 岡田 安弘

(エコ班は春耕の前作業で稲株を掘る。稲刈りした子らの姿が浮ぶ)

あさまだき手弁当下げ霜の道 岡田 安弘

(ならやままでの2時間。寝坊できない木曜日 of 自画像)

満開の紅梅うれし朝のバス 羽尻 嵩

(地元の人 of 丹精した土手の紅梅が満開。見る人の心も春の色に染める)

杉道に薄き木影や雪催 坂東 久平

(雪のちらつくハイキング、薄日が差し、木影が浮かび上がる)

投句歓迎!

事務局 古川祐司
(07003421@nifty.com)

どこからか柚子一つずつ手から手へ 桜木 晴代

(ならやまの昼休み。誰からか柚子が配られる。手にもいい香り)

下仁田のついつい化けて鴨の鍋 青木 幸子

(頂いた見事な下仁田葱に、つい鴨肉を奮発。寒夜の鴨鍋と熱燗)

松風や香焚きしめて初茶湯 坂東 由紀子

(初釜。香が焚かれ、釜が鳴りはじめ。かすかに菊炭のはぜる音。静寂の間合い。「松風」は茶道で釜の沸く静かな音のこと)

あなうれし川井翁しのび初吟句 小山 喜与男

(俳句欄久々の復活を喜ぶ、お祝いの初吟。ご健吟を期待します)

混群の鳥来たり去る冬木立 古川 祐司

(シジュウガラ、メジロ、オナガの混群、餌場を気ぜわしく巡る)

豚汁の湯気になごむや野良の昼 古川 祐司

(大寒。今日は冷え込む。ならやまの昼餉に熱い豚汁に頬が緩む)

論果てて仲間に戻る酒は燗 古川 祐司

(幹事会での熱い議論。終わればいつもの居酒屋に熱燗で締め括る)

平成31年度 月例研修会 活動計画

月例研修会担当 富井忠雄

平成31年度(2019年)については、奈良(大和)の自然・歴史・文化の探求を目的に、まず大和の古道・旧跡を歩き探訪したいと思います。その中で自然(樹木・山野草・野鳥など)に触れあったり・寺社仏閣を見識したり、その地域での歴史・文化を見学・発見をしたいと思っています。夏季研修会においては、新しく兵庫県(明石)の明石大橋などを計画しています。

月	日	曜日	概要	主要行先	例会担当者
2019年 4	2	火	奈良の三名椿 (花見)	白毫寺・東大寺(開山堂)・ 伝香寺	◎中川・青木・富井
6	4	火	柳生街道	円成寺・お藤の井戸・天乃石 立神社・芳徳寺・旧柳生藩家 老屋敷・十兵衛杉	◎羽尻・太田・富井
8	4	日	{夏季研修会} 明石海峡大橋	明石海峡大橋登頂・天文科学 館・柿本神社・明石城跡・	◎小島・戸田・富井
10	21 -22	月 火	{一泊研修旅行} 十津川・玉置山	谷瀬の吊橋・玉置神社・十津 川温泉・小辺路果無部落	◎下村・鈴木・小島 青木・戸田・富井
12	3	火	大和三山巡り	畝傍山・耳成山・天香久山	◎中井・羽尻・富井
2020年					
2	18	火	明神山から太子道	王寺・明神山・尼寺廃寺跡・ 達磨寺(太子道)	◎下村・桜木・富井

※ 10月はサロンカー使用(鈴木会長): 8月・12月マイクロバス?

※ 各月例担当者では、下見・本番・資料・アルバム作成などお願いします。(3名~)

※ 各月のアルバム・広報については: 青木幸子・ ◎印は、各例会の担当責任者です。

※ 諸般の事情により、実施日、行先等を変更する場合があります。担当(富井・中井・青木)

平成31年度 自然教室チーム 活動計画

自然教室担当 辻本 信一

酷暑、極寒の7月、12月、1月、2月の観察会は中止いたします。

来年3月の観察会は、「お楽しみ」とさせていただきます、詳細は3か月スケジュール発表時に合わせて紹介させていただきます。

その他、「ならやま」での自然観察会ははじめ、四季折々の話題提供となるオプション観察会を随時企画いたしますので、ご期待ください。

月	日	曜日	自然観察会・学校支援
H31			
3	27	水	春爛漫の奈良公園 桜見物
5	20	月	新緑の歌姫街道・佐紀古墳群 自然観察会
6	未定		育英小学校：出前教室
6	未定		佐保台小学校：放課後子供教室
6	17	月	初夏の大和民俗公園 自然観察
7	未定		帝塚山小学校：アフタースクール
8	19	月	平城京 燕の埒入り観察
9	未定		佐保台小学校：昆虫観察会
9	16	月	初秋の奈良公園 自然観察会
10	28	月	秋の平城京 自然観察会
11	27	水	晩秋の奈良公園 紅葉狩り
12	未定		帝塚山小学校：アフタースクール
H32			
3	2	月	早春の「お楽しみ」 自然観察会
3	未定		帝塚山小学校：アフタースクール

平成31年度 歴史文化クラブ 活動計画

歴史文化クラブ 古川 祐司

歴史文化クラブは、古事記編纂 1300 年に当たる 2012 年に発足し、今年で 9 年目を迎えます。この間、「歴史の渚を歩く」をスローガンに、奈良県の古代史を中心に遺跡や史跡を探訪してまいりました。さらに、出雲、丹後、越前、吉備などの地方での一泊研修会を実施し、地方史からの視点も取り入れました。

「歴史とは現在と過去との不断の対話である」とは、歴史学者 E・H・カーの至言です。それぞれの時代を生きる人たちによって、歴史は常に見直されてきたことは、私たちも体験してきたことです。

とくに昨今では、考古学の進展により、奈良の地にも重大な発見が相次ぎ、歴史にもさまざまな新解釈が加えられるなど、歴史ファンとしましては、好奇心とロマンを一層かき立てられます。

「大和の自然を愛する」我々は、この風土を形づくってきた過去の歴史に無関心でいられるはずがありません。今年もまたご一緒に、大和の地を巡って、学習し、想像の翼を思いきり拡げて議論してみたいと思います。

今年度の歴文活動計画を以下のように立案しました。なお、恒例の一泊研修は、適當の候補地がないため実施いたしません。

関係各位のご助言を頂きながら、楽しく充実した内容になるよう努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

月	日	曜	テーマ	内容	担当世話人	交通機関
5	14	火	馬見古墳群	新沢千塚古墳群から馬見古墳群を歩く	坂東・(古川)	M バス
7	23	火	唐古鍵遺跡	唐古・鍵遺跡から纏向遺跡への道	田代・(中井・田積)	徒歩
9	10	火	百舌古墳群	河内王朝の実像を求めて(1)	田積・(中井・田代)	M バス
11	12	火	和邇氏Ⅱ	和邇氏の実像(系譜と奥津城を求めて)	藤田・(塩本)	徒歩
12	10	火	地元史と座学	未定	永井・鈴木・田代	徒歩
1	14	火	三輪山登拝	大神神社初詣と三輪山登拝	弓場・富井・中井	徒歩
3	10	火	万葉ロマン	未定	杉本・(古川)	徒歩



粹な駄洒落

岡田 安弘

おやじギャグの乱発は、聞く方がサムイ。ちょっとした笑いにこそ、人肌のぬくもりを感じる。言葉あそびの達人でもある作家井上ひさしには、生涯の傑作と自賛する駄洒落が二つある。近親相姦を警視総監と読み換えたのには思わず笑う。もうひとつは「センチメートル・ジャーニー」。小旅行で難渋した折、ジャズのセンチメンタル・ジャーニーを思い浮かべたのだろう。

つい先ごろ、ジャズ歌手の宮川純子とピアニストで作曲家の清水武志のライブで傑作に出合った。

ジャズは失恋や片思いの歌詞が多いことでトーチ・ソング (torch song) とも言うそう。トーチの直訳は松明 (たいまつ) または灯り。どうして片思いの歌をトーチ・ソングと言うのか、あれこれ連想する。松明だからといって、二月堂のお水取りとは関係あるまい。ギリシャからリレーされ、東京五輪で点火される光景まで思い描く。

ライブが終わった。ピアニストの独り言が聞こえる。ニューヨーク沖合いの自由の女神像は130年以上もの間、重いトーチをかかげてはる、と話している。「女神は肩重いと云うてはるんや・・・片思い・・・」。宮川が吹きだしてお開き。

こうなると正しい語源が知りたくなる。帰宅してインターネットで検索した。ありました！「carry a torch for……」に続き「・・・に片思いする」とある。昔から言い習わしになっている諺 (ことわざ) の類らしい。出来事の簡潔な風刺が語源だった。

私は昔、両腕を骨折した。プールの帰り道、水着を入れた袋を自転車のハンドルにぶら下げる。紐が長くてブラブラする。気になりながらも花屋があったので立ち寄る。10キロ入りの肥料を前籠に乗せて走る。紐が前輪にからんだ。重量は前にかかっている。つんのめる体が宙を舞う。道路に叩きつけられた。とっさに両手をつき、頭を守って骨を折る。「どうせ酔っ払ってのこと」。仲間の陰口は空耳だと思いたい。両手の先までギブス。

医者から入院を勧められる。女性看護師にシモの世話になるのは嫌だ。入院を断る。嫁は「入院保険金が出たのに」と不機嫌。そんなことまで書いてどうするんだ、と思うでしょ。あと少しの辛抱です。

東京の先輩から電話。「お骨折りは仕事だけにしてください」。

粹な駄洒落は、心を癒したり、士気を甦らせたりする。

☆

☆

会社の診療所の医師を仲間の宴席に招いたことがある。ヘビースモーカーの私の肺は真っ黒だろう、と同僚が医師に尋ねる。「レントゲンを見たので保証する。彼の肺は真っ白です」と医師。反論する者がいた。「そのフィルムは裏焼きじゃろう」。

♪

♪

「古い奴だと思いでしょが・・・世の中、右も左も真っ暗闇じゃござんせんか」。鶴田浩二唄う「傷だらけの人生」。この替え歌を得意とする事件記者の先輩 (故人) がいた。先輩のライバルだったY社の記者 (今はTVコメンテーター) が自著に書いている。「古い奴ほど特ダネをほしがるとのじゃござんせんか・・・なんて替え歌を聞かされると背中がゾクッとした」。弔辞はこうありたい。

☆

後輩が東京から大阪に転勤してきた。「自信を持って着任したわけではありません」と転勤あいさつ。阪神大震災の直後だった。自信と地震で座布団1枚。

☆

映画「カサブランカ」の「君の瞳に乾杯」は以前、「字遊字感」に書いた。ハンフリー・ボガード演ずるリック (酒場の主人) がイングリッド・バーグマン演ずる元愛人と偶然に再会した場面の台詞だ。この映画には、ほかにも粹な台詞が散りばめられている。

リック恋しさに女性客が酒場に通いつめる。擦り寄る女性にリックの返事は、つれない。「昨夜は何をしていたの?」「そんな昔の事は覚えていない」。「今夜は逢える?」「そんな先のことは分からない」。

2月月例研修会・報告

古い歴史と文化の香る

安堵町と廣瀬神社を訪ねて

青木 幸子

2月11日、降雨確率50/30、最高気温7℃、テレビ画面は雲と雪だるまのマークばかり。こんなどんよりした寒い日に、皆さん集まってくださるだろうか？心配しながらJR法隆寺駅に着くと、すでに多くの方が集まっておられた。9:30には28名全員集合、ホッとする。

3班に分かれて安堵町の観光ボランティアガイドの方と出発する。早速レンガの跡が残る「天理軽便鉄道」の説明が始まる。天理教信者を運ぶ目的で作られ、大正4年から6年間、新法隆寺駅から丹波市駅（天理駅）間を走っていたという。



のどかな田園風景の中、鉄道跡の細い道をしばらく歩く。聖徳太子が膳妃と住まっていたという



住居跡に着く。その横に在原業平の有名な和歌「ちはやふる……」の歌碑が建つ

上宮遺跡公園がある。平城宮と同じ文様の瓦や井戸跡などが見つかり、称徳天皇が行幸した際に宿泊した飽波宮ではないかといわれている。遠くに「調子丸古墳」「黒駒古墳」が見える。少し雪がちらつきだしたがホコリ程度で傘もいらない。在原業平も河内の姫のもとへ通ったという古道を歩く。誰かが「どれくらい遠いんやろ～」と。

続いて善照寺へ。本堂の前に太い根がむき出しになって生えている「富生の松」と呼ばれる、樹齢約250~260年の巨大な松がある。いわゆる「根上がりの松」で「値上がり」に通じ縁起がよいとお参りする人も……。



太子道沿いにある広峰神社へ。ここは聖徳太子の飽波葦垣宮（あくなみあしがきのみや）跡で元飽波神社があった所と伝えられている。さ

らに太子道をたどり飽波神社へ。鳥居に掲げられた「安久波社」の額は富本憲吉氏の筆によるのか。ここに聖徳太子が腰掛けられたという大きな石がある。以前歴史文研修会で訪れた時に、故川井代表が座って写真を撮られた懐かしい場所だ。今はとても似つかないかかしが座っている。



安堵町歴史民俗資料館へ。この建物は、代々庄屋などの村役を勤めた今村邸を安堵町が譲り受け修復、改装したとある。伝統産業の「灯心ひき」や天理軽便鉄道の模型、昔の道具など展示されている。極楽寺へ寄ってからお待ちかねの「うぶすなの郷 TOMIMOTO」へ。

暖かい部屋はなによりのごちそう。ホッとひと息ついて、おいしいランチをいただきしばし歓談する。体もお腹



も温まりいよいよ「御田植祭」の廣瀬神社へ出発。小雨が降り出したがすぐに止む。あちらこちらに満開の紅梅白梅が灰色の景色に色を添えて美しい。大和川を渡り河合町の廣瀬神社までひたすら歩く。

祭りは午前の「殿上の儀」と午後の「庭上の儀」に分かれているが、午後の庭上の儀（砂かけ祭り）に参加する。牛で田を鋤く静かな神事の後いきなり砂が飛ぶ。想像以上に遠くまで砂が飛び交い、ほとんどの参加者はかけられたと思う。砂かけが激しいほど豊作になるとのことで、今年のならやまの収穫にご期待ください。



安堵町はのどかな田園風景の中に古い歴史があり、伝統文化を守る人々がいる興味深い町でした。

語り合う会一本音でトーク

個性の数だけの夢とロマンの花咲く

マンネリ化を打ち破り、大胆に会の活性化を一。ならやま里山林景観形成整備活動のさらなるステップアップをめざそうと、「語り合う会一本音でトーク」が2月19日(火)、奈良市中部公民館・3階視聴覚室で催されました。夢やロマンを交えて、時間の経つのも忘れるほどに話が弾みました。

18年前、シニア自然大学校で研鑽を積み重ねられた45名の皆さんが、「大和の自然を愛します」の合い言葉の元、相集い呱呱の声を挙げた本会も、今日では発足時の4倍近い会員数となりました。

その間、シニア自然大学校OBの方たちが、先輩たちの後に続けと入会され、新風を吹き込み、先駆者としての自覚と情熱を持って、会の活動の充実に寄与されてきました。

しかし、初代会長の川井秀夫さんは、いつまでもシニアに依存しては更なる発展は望めず、いつかは先細りしていくことになりかねない、市民参加型へ、つまり地域に支えられる活動形態に徐々に切り替えていくようにしなければならない、との方針を打ち出されました。

以来、当会は、地域社会への情報の発信、地域社会の一員として地域活動への積極的な参加、会報誌の内容充実、HPの充実、学校や公民館などとの連携強化、特に近隣小学校児童への自然環境教育支援等々に、機会を捕えては力を注いできました。

その甲斐あってか、年々地域住民の方々の新入会者が増えてきました。現在では、会員のうち奈良市在住者が54%、近隣市町村を含むと70%を超えるまでになっています。

ならやま里山林景観形成整備活動に取りかかって13年目となるいま、ただ単に毎週体を動かし、思い思いに楽しみながら活動を続けているという次元より、会の将来を見据えつつ一歩ステップアップしていくことが大切ではと、知恵と夢をぶつけあっていただく、語り合う会が開催されました。

参加者は、入会5年目までの方が9名、6年以上のベテラン組が8名、それに、古川参与、辻本

事務局長が加わり総勢20名となりました。

まず、会長から語り合う会の趣旨、開催に当たっての思いなどを交えて話があり、新入会組とベテラン組の2班に分かれてグループ討議に入りました。新入会組では、初顔合わせの方もあり、自己紹介を兼ねて入会の動機や将来に向けての目標や夢などを語り合っていました。ベテラン組では、膨大化した現状に流されることのない活性化、そして新しい会員の方々に対しての先輩としてのあり方、組織体制のより健全化とともに、より良き活動を目指すための課題とその解決策などについて建設的な意見が交わされました。

各グループでの前半の意見交換会が、約1時間経過した時点で、古川参与が、ならやまプロジェクト開始から4年間の取り組みと活動の成果などを、パワーポイントに解説を加えつつ説明していただきました。

新入会組の方々からは、「ある程度整備が進んだ時期に入会したので、しっかりとした理念やコンセプトの元にプロジェクトが進められてきていることが理解できたことは良かった」ただ、「ある程度整備が進捗しているので、そこに夢を描くのは難しさもあるように思われる」「順調に進んでいるようだが、不十分にも思う」「『計画対現実』を示してもらいたい」などの意見が出されました。

「新入会員オリエンテーションは、詳細な内容で実施してもよいと思う。また、多面的な機能を持つ里山林の良さを最大限に活かし、地域との連携をさらに強化したイベントなどを企画・実践してもらいたい」などの要望も出されました。

ベテラン組では、後進の指導や育成に向けたフォロー体制、各グループ巡回体験、自然観察日の設定と参加体制、協働活動日の運営、イベントにおけるパターンの固定化と担当者の工夫の余地など、幅広い問題提起や意見の交換が行われました。

まもなく当会創設20年に近づきつつあります。当会の“成人”後の道筋を探るためにも、今後も継続して開催の予定です。新入会員の皆様のご参加をお待ちしています。

(鈴木末一 記)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

3月	7 (木)	14 (木)	21 (木)	28 (木)
4月	4 (木)	11 (木)	18 (木)	25 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統

8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統

8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

里山

3/7 協働活動・アダプトプログラム

椎茸菌打ち（協働活動）／楯木仮伏せ
台風被害木伐倒／薪割り

14 椎茸菌打ち・楯木仮伏せ

台風被害木伐倒・枝整理／薪割り

21 台風被害木伐倒・枝整理／里山林内整理

28 里山林内整理／薪割り

エコファーム

3/7 協働活動・アダプトプログラム

茄子、唐辛子類の苗床の準備

じゃがいも、葉菜類の畝作り

蕎麦：チップ入れ

14 じゃがいも植え付け

ほうれん草、春菊葉菜類の播種

茄子、唐辛子類の苗床に播種／蕎麦：チップ入れ

21 カボチャ、トマト、苗床に播種

ゴボウ（滝野川）ネギ（九条、下仁田）

ニンジン畝作り播種

蕎麦：新入会員歓迎会へ参加／畑の耕運

28 サツマイモ、里芋畑準備

エンドウのつる誘引、追い肥

蕎麦：蔵づくり（カボチャの植穴）

景観

3/7 協働活動・アダプトプログラム

景観：彩の森周辺整備

ビオ：泥沈殿池造成

花：ボケ、サザンカ移植／フィールドの桜へ施肥

14 景観：彩の森周辺整備

ビオ：泥沈殿池造成

花：コオニタビラコ、ゴギョウの植え付け、真砂土入れ

21 景観：彩の森周辺整備

ビオ：泥沈殿池造成

花：花菖蒲園草取りと施肥／柵類の新旧作り変え

28 景観：彩の森周辺整備

ビオ：池の春準備

花：ポピー霜囲い撤去、施肥／柵類の作り変え

パトロール

3/7 協働活動・アダプトプログラム

丸太階段補修／手すりロープ補修

放置伐採木片付け／ミーティング

14 21 28

丸太階段補修／手すりロープ補修

放置伐採木片付け



進路ガイダンス報告

羽尻 嵩

1月20日(日)午後1時より、鶴見緑地花博記念ホールにて、シニア自然大学校を修了する聴講生に向けての各種団体による「進路ガイダンス」があり、会からは5名が出席した。

ホールの講堂とロビーで、今回は50の出店があり、我々のブースの場所はホールの講堂の正面の一角だった。

会の活動を撮った拡大写真を背後に貼り付け、パソコンをセットして会の活動を示すDVDを流し、リーフレットや鹿の折紙などを机の上に置き準備にかかった。

午後1時40分から、ブースに来られた方に入会を勧誘し、入会してみようかなという方に名前を書いていただいた。



午後、3時過ぎにガイダンス終了。

9名の方に名前を書いていただいた。大半が本会に実習に来た方で、奈良市在住が1名で、後は大阪府在住の方々だった。最終的に入会希望者は、シニア自然大学校で2月13日までに集約して、連絡が来ることになっている。

小雨降る中、11時頃からこのガイダンスのために来ていただいた小島、青木、冨江、浅岡さん、事前に写真など準備物を用意していただいた辻本さん、ありがとうございました。



行事案内 Part 1



3月歴文研修会予告

杉本 登

3月歴文研修会は「山の辺の道」を歩きます。皆さまのたくさんのご参加をお待ちしています。

春の「山の辺の道」は梅や菜の花が咲き乱れて皆さまを歓迎してくれることでしょう。特にたしらかのひめみこみさきぎ手白香皇女御陵から見る大和国中は正に絶景です。ふすまじ衾道には歌聖柿本人麻呂が妻を亡くし悲嘆にくれて詠んだ次の歌の碑があります。

「ふすまじ衾道を 引手の山に 妹を置きて

山路を行けば 生けりともなし」



日 時：平成31年3月20日(水) 10:00 集合
 集合場所：近鉄天理駅 改札口前 (雨天実施)
 交通機関：近鉄西大寺発 9:31-天理着 9:49

JR 奈良駅発 9:40-天理着 9:54

行 程：天理駅(歌碑) → 天理市役所(歌碑) → 石上神宮外苑(歌碑) → 石上神宮(歌碑) → 内山永久寺跡 → 天理観光農園(昼食) → 夜都伎神社 → やとぎじんじや萱生環濠集落(歌碑) → かようかんごうしゅうらく手白香皇女御陵 → 衾道(歌碑) → 天理トレイルセンター → 黒塚古墳展示館 → JR柳本駅(15時頃解散) 約9km

持 物： 弁当、飲み物、おやつ、雨具

申込先： 青木幸子

問合せ： 事務局 中井弘

行事案内 Part 2



新会員大歓迎会

1. **新会員**：昨年4月から今年3月までに入会された方々が対象です。
2. **日時**：平成31年3月21日（木）
（雨天→3月28日）
受付開始：午前9時～
歓迎会：12時～14時半
3. **場所**：ならやまベースキャンプ
4. **会費**：500円（新会員は無料です）
5. **メニュー**：バーベキュー・焼きそば・おでん
手打ち蕎麦など。
6. **持ち物**：お皿・お箸（必要な方はおにぎりを）



新会員の方々をあらためてご紹介し、心を込めて歓迎する恒例行事です。皆さまぜひご参加くださいませ。



恒例により昨年歓迎を受けた方々が、今回はお世話役として活躍していただきますが、既会員も全面的に協力いたします。



※ノーマイカーデーです。
アルコールが出ますので電車、バスなどでお越しください。

佐保川わいわい桜祭り

- ◆ 3月30日（土） 予備日 31日（日）
- ◆ 模擬店・イベントなど：10時～15時
- ◆ 奈良市立佐保川小学校運動場・水辺の楽校
近鉄新大宮駅北東側の川沿いの遊歩道一帯
- ◆ 万葉集にも詠まれている佐保川に咲く桜は、江戸時代末期に奈良奉行の川路聖謨（かわじとしあきら）が植樹させたのが始まりとされています。5kmに渡る1000本もの桜並木は圧巻で、なかでも樹齢170年を超える「川路桜」の見事さは一見の価値があります。名奉行の呼び声高く、奈良の人々に愛され信頼された聖謨の人柄を現代に伝えるかのように、支柱に支えられらんまんと花開き、美しく水面に映る桜影は、訪れる人々の心に和みと華やかさを……。なお、期間中は、「佐保川桜祭り灯火会」も開催され、地域住民手作りのあんどんにろうそくで灯火されます。この火のことを古くは「花篝（はなかがり）」と呼んでいます。水面に桜が映り、とても幻想的で、ひと味違う風情ある夜桜も鑑賞することができます。



行事案内 Part 3

自然教室チーム 春の奈良公園



自然観察会（桜見物）のお知らせ

いよいよ待ちに待った桜の時機到来です。

これまで毎年4月はじめに実施しておりました桜見物を中心とした自然観察会は、最近の温暖化を見越し、今年は3月27日（水）に下記要領にて実施いたします。



【浮御堂の桜】



【春日野園地の桜】

とはいえ、奈良公園では早ければ3月中頃から遅くは5月はじめごろまで時期をずらしているいろいろな桜の開花が楽しめます。

今年は、特に新公会堂裏の庭園内に植えられているスプリングエフェメラル（春の妖精）、カタクリの花も鑑賞できるのではと期待しております。

また、この時期、桜の花びらを食む鹿の姿も奈良公園ならではの光景です。



【東大寺の桜】



【大仏殿裏おかつば桜】

いろいろな魅力満載の春の奈良公園に皆さまもぜひお出かけください。多数の皆さまのご参加お待ちしております。

1. 日 時：3月27日（水）10:00～14:00 予定
2. 集 合：近鉄奈良駅、行基菩薩像前
3. 持ち物：弁当、飲み物、有ればルーペ
4. 観察ルート：春日野園地を中心に奈良公園内をのんびりと散策します。

（担当：辻本 ）

4月・月例研修会のご案内

奈良の三名椿・寺院・桜巡り

春らんまんの季節に、奈良市内の椿の名所3か所を巡り、満開の桜の下でお花見を楽しみましょう。

椿の花は古くから日本人に愛されてきました。将軍、大名、公家などが好んだことから、庶民の間でも大いに流行し、たくさんの品種が作られてきました。花期は長く、冬から春にかけて咲き続けるので、当日も楽しむことができるでしょう。

＊**伝香寺**：鑑真和上の弟子による創建。筒井順慶の母・芳秀宗英尼が順慶の菩提を弔うために再興、筒井家の菩提寺です。桃色の花びらが、咲いてすぐ桜の花びらが散るように散ってしまうので、散り際が潔く、若くして没した順慶になぞらえて「**武士（もののふ）椿**」とも呼ばれています。

＊**白毫寺**：高円山の山麓に建つ寺。万葉歌人の志貴皇子の山荘があったところとされています。本尊、阿弥陀如来座像など国の重要文化財指定の諸仏が安置されています。樹齢400年の**五色椿**は、その名の通り一本の木に五種類の花をつける珍しい木で、奈良県の天然記念物に指定されています。

＊**開山堂（東大寺）**：東大寺開山の良弁僧正坐像（国宝）が安置されており、良弁堂ともよばれています。良弁忌の12月16日のみ公開されます。

椿「**糊こぼし**」は開山堂の前にあり、四月堂から堀越しに見ることができます。

<実施要項>

1. 月日：4月2日（火）降水確率60%以上中止
2. 集合：近鉄奈良駅、行基菩薩像前 9時30分
3. 持ち物：弁当、飲物、雨具、敷物
4. 参加費：1300円（拝観料、飲物代含む）
5. 担当：中川徹、青木幸子、富井忠雄

<行 程>

行基像前 9:30—率川神社—伝香寺—近鉄奈良駅前（バス）—高畑—白毫寺—東山緑地（花見昼食）—春日奥山遊歩道—東大寺開山堂—近鉄奈良駅 15:30頃 行程約7～8km。

（奈良市のななまるカードお持ちの方は忘れずに）

